

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大学名	東洋大学
整理番号	B16
構想名	TOYO GLOBAL DIAMONDS グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学を目指して

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	<p>これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。</p>
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、「グローバルリーダーの集うアジアのハブ大学」を実現させ、社会の中核を担う「東洋グローバルリーダー」および、その中でも世界の舞台で先端的な役割を果たす「ニューエリート」の育成を目的とした取組である。</p> <p>平成29年度の国際学部グローバル・イノベーション学科（新設）、並びに国際地域学科（改組）の設置、国際観光学部（学部昇格）並びに情報連携学部（新設）の設置、平成28年度から実施している全学 TOYO GLOBAL LEADER プログラムなど、着実にグローバル人材の育成が進められている。</p> <p>また、国際通用性の高いプログラムとするために、UMAP 国際事務局としての機能受け入れや、東洋大学グローバルサービス（株）（TUGS）の設立など、他の大学にないユニークな取組をもって学内のグローバル化を推進している点は大いに評価できる。</p> <p>さらに、国際連携本部と小委員会、9つの部会からなる国際連携推進委員会を連動させることにより、国際化に向けた情報や指針の共有が、学長と各学部とで意見交換できる体制を作り上げ、全学が一丸となって構想の実施に向けて取り組めるように体制整備がなされてきている。</p> <p>特筆すべき成果として、TOEIC730点以上達成学生数が目標値を超えたことや、海外各地での留学フェアや高校訪問の成果による渡日前入試への出願者増、TGL プログラムブロンズ取得者の目標値を超える成果など、評価できる。</p> <p>財政支援期間終了後の自走化に向けた施策も、理事会並びに評議員会において年間9億円規模の予算を本構想の継続のために承認されたことは、本構想の意義にかなう良い事例になった。更に発展的な継続性を目指し、事業法人を立ち上げ、その収益からの寄付を見込むなど、他大学の模範となりえる。</p> <p>今後は、本構想を通して培った大学の国際化に関する知見、見識を他の大学に広く開放し、日本全体の若者の国際化に寄与していただきたい。</p>	